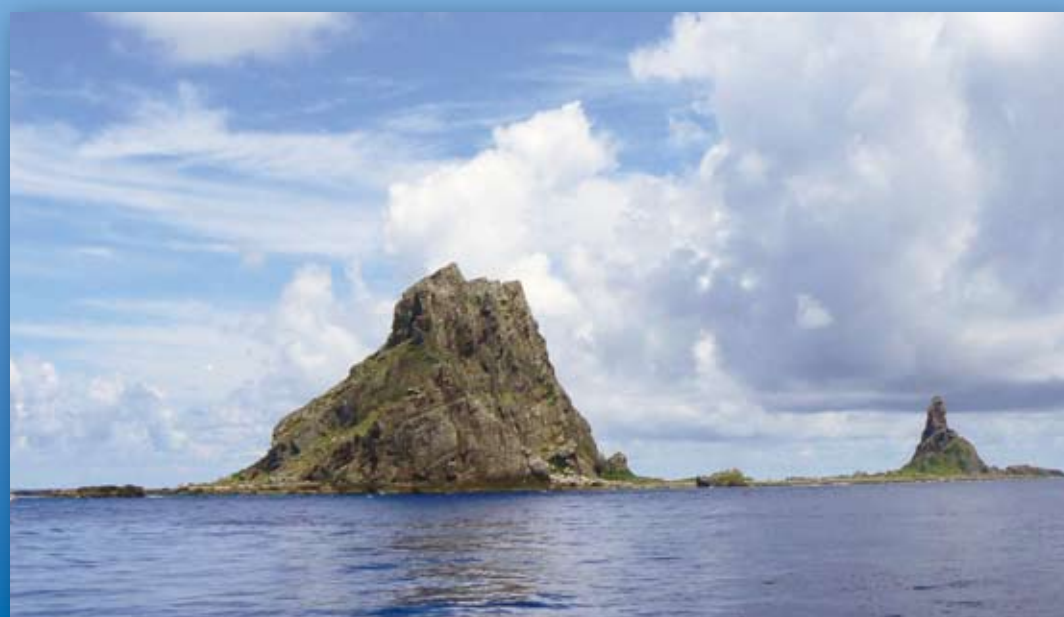


石垣市の宝

尖閣諸島



発行：石垣市

〒907-8501

沖縄県石垣市美崎町14番地

2021年3月 第2版発行

石垣市

石垣市の宝 尖閣諸島

1 尖閣諸島とは	1
2 尖閣諸島の位置	1
3 尖閣諸島周辺の海域	2
4 尖閣諸島の基本データ	3
5 尖閣諸島の歴史	5
6 尖閣諸島における学術調査	7
7 尖閣諸島の環境問題	9
8 石垣市の取り組み	10

表紙写真:魚釣島(提供:東京都)
裏表紙写真:南小島(提供:石垣市)

1 尖閣諸島とは

尖閣諸島は東シナ海に点在する無人の島嶼群で、うかつりしま魚釣島、みなみこじま南小島、きたこじま北小島、くぼしま久場島、たいしょうとう大正島、おきのきたいわ沖ノ北岩、おきのみなみいわ沖ノ南岩、とびせ飛瀬などから成る島々の総称です。尖閣諸島の行政区域は沖縄県石垣市で、最も大きな魚釣島は石垣島の北西約170kmに位置します。八重山地方では昔から『イーガン・クバジマ』と呼ばれ、周辺海域は良好な漁場として漁師たちに知られてきた他、明治時代から昭和初期にかけては羽毛採取かつおぶしや鯨節の製造などの事業が営まれ、多くの人々が生活していました。

尖閣諸島の名称は、沖縄県師範学校博物農業教師の黒岩恒氏くろいわひさしによって命名されました。これは、北小島や南小島などの島の形が尖っていることが由来となっています。明治33年、黒岩恒氏は魚釣島などに上陸し、火山性の島で岩盤がむき出しになっていると地質図を描き残しています。

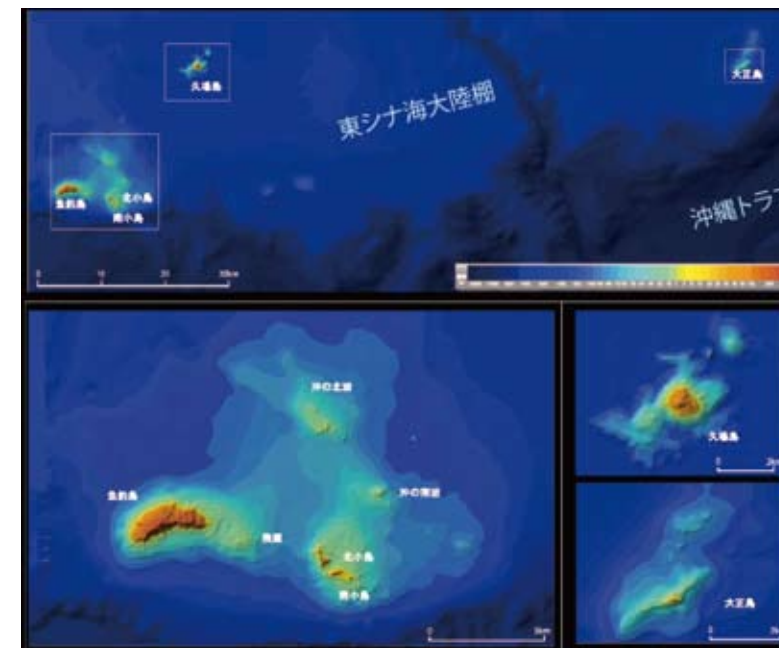
2 尖閣諸島の位置



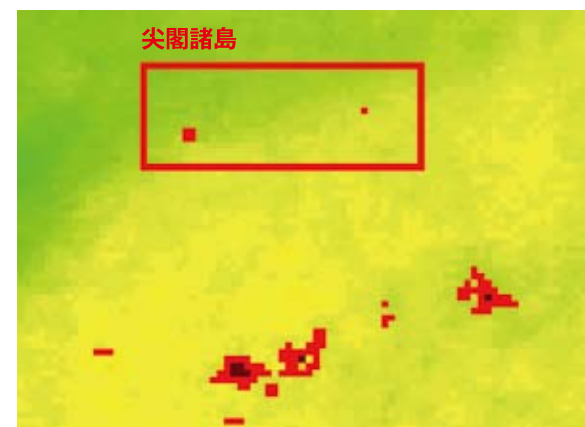
3 尖閣諸島周辺の海域

尖閣諸島は東シナ海大陸棚の外縁部に位置しています。南端に位置する南小島の南側は沖縄トラフに続く急勾配な海底斜面が続いています。この東シナ海の海底において、石油埋蔵の可能性のある事が1969年に国連アジア極東経済委員会により報告されました。この発表後より中国及び台湾が初めて領有権を主張するようになりました。

尖閣諸島の周辺海域は、暖かい黒潮の流れと大陸からの栄養塩を含む低温の水が混ざり合う“潮目”に位置し、周辺に比べて多くの魚が集まってきました。このため、漁業者にはかつてより好漁場と知られており、八重山だけでなく宮古島や沖縄本島からもたくさんの漁船が出漁し、カツオ、マグロ、カジキ、マチ類等の魚が盛んに行われていました。



column 衛星画像解析で尖閣諸島を見る



人工衛星からはおなじみの衛星写真だけではなく、画像解析により海水温や水質など海域の環境要素を把握することもできます。ここでは石垣島から尖閣諸島周辺海域の夏季の水温とクロロフィル量の分布を示します。

図は2013年の7月から9月までの日々のデータを集め、平均としてまとめたデータ図です。

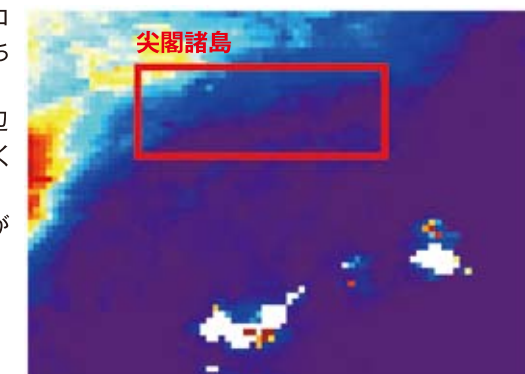
黒潮が流れる八重山諸島周辺では、夏季には平均水温が29℃程度まで上昇しますが、尖閣諸島の北側で水温がやや低くなっているようです。これは、大陸からの低温水の影響と思われる。

水温:2013年7月～9月 (degrees)

クロロフィルとは、植物プランクトンが持つ光合成色素のことです。クロロフィル量が多ければ、植物プランクトンが多く発生していること、すなわち栄養塩が豊富なことがわかります。尖閣諸島の周辺海域において、夏季にはクロロフィル量は八重山諸島周辺に比べ、尖閣諸島周辺でやや高い値が見られます。これは水温と同じく大陸の河川水からの栄養塩に影響されていると思われます。

このことから尖閣諸島周辺海域が良好な漁場であるということがわかります。

クロロフィル量:2013年7月～9月
Chlorophyll a concentration (mean) (µg m⁻³)



4 尖閣諸島の基本データ

※緯度経度、標高、面積は国土地理院データを参照

うおつりしま
魚釣島
UOTSURISHIMA

面積 3.81km²
位置 北緯25°44′、東経123°28′
石垣島北西170km(尖閣諸島西端)
沖縄県石垣市字登野城尖閣2392番地
標高 362m
概要 諸島中最大の島で、東西に長い楕円形で、島の北側は比較的緩やかな斜面が海岸から山頂に続いています。南側は急峻な崖となっています。

写真提供:山田吉彦



写真提供:山田吉彦




写真提供:山田吉彦



写真提供:山田吉彦



国土地理院 2003/1/12



写真提供:東京都

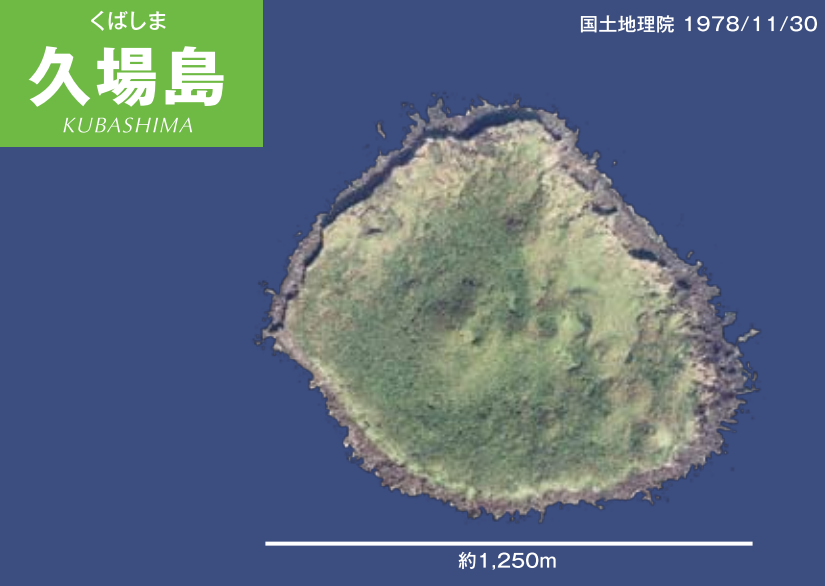


写真提供:東京都

くばしま
久場島
KUBASHIMA

面積 0.91km²
位置 北緯25°55′、東経123°40′
石垣島北方182km、魚釣島東北方22km
沖縄県石垣市字登野城尖閣2393番地
標高 117m
概要 別名黄尾嶼。ほぼ円形の火山島であり、島の中央部に数個の火口があります。島中央から海岸へなだらかな地形ですが、海岸は壁岩で囲まれています。

国土地理院 1978/11/30

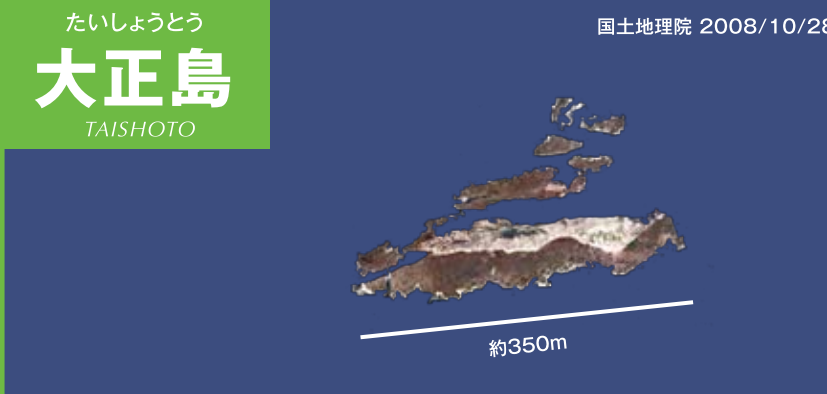


国土地理院 1978/11/30

たいしょうとう
大正島
TAISHOTO

面積 0.06km²
位置 北緯25°55′、東経124°33′
石垣島北東180km、魚釣島東方103km(尖閣諸島東端)
沖縄県石垣市字登野城尖閣2394番地
標高 75m
概要 別名赤尾嶼。大陸棚の東の端に位置しており、東西方向に直立する薄い主岸壁及び、標高の低い数条の岸壁からなっています。

国土地理院 2008/10/28



国土地理院 2008/10/28

きたこじま
北小島
KITAKOJIMA

面積 0.31km²
位置 北緯25°43′、東経123°32′
石垣島北西166km、西表島北方160km
沖縄県石垣市字登野城尖閣2391番地
標高 125m
概要 四隅が突き出た矩形の島で、島の北部はとがった岩場、南部はテラス状の岩山からなり、周囲に隆起サンゴ礁海岸が広がっています。

国土地理院 2003/1/12



国土地理院 2003/1/12

みなみこじま
南小島
MINAMIKOJIMA

面積 0.40km²
位置 北緯25°43′、東経123°33′
石垣島北西165km、西表島北方160km
沖縄県石垣市字登野城尖閣2390番地
標高 139m
概要 2ヶ所の険しくとがった岩場とその間に広がる隆起サンゴ礁の平地からなり島全体は楕円形を呈しています。

国土地理院 2003/1/12



国土地理院 2003/1/12

おきのきたいわ
沖ノ北岩
OKINOKITAIWA

面積 0.03km²
位置 北緯25°46′、東経123°32′
石垣島北方170km
標高 28m

国土地理院 2003/1/12



国土地理院 2003/1/12

おきのみなみいわ
沖ノ南岩
OKINOMINAMIWA

面積 0.01km²
位置 北緯25°45′、東経123°34′
石垣島北方167km
標高 10m

国土地理院 2008/10/28



国土地理院 2008/10/28

とびせ
飛瀬
TOBISE

面積 0.002km²
位置 北緯25°44′、東経123°30′
石垣島北西167km
標高 2m

国土地理院 2008/10/28



国土地理院 2008/10/28

5 尖閣諸島の歴史

尖閣諸島が正式に我が国の領土として沖縄県の所管とすることが決まったのは1895年(明治28年)のことです。以来、日本は尖閣諸島を有効に支配してきました。ここでは年表を下に尖閣諸島の歴史を振り返ります。

時期	概要
1891年(明治24年)	尖閣諸島を八重山警察署の仮所轄に編入した。
1895年(明治28年)	1月14日に尖閣諸島が日本の領土に編入され、沖縄県の所管とすることが閣議決定された。  沖縄県所轄とする閣議決定 (資料:国立公文書館)
1896年(明治29年)	古賀辰四郎氏による事業の展開 沖縄県から尖閣諸島の開拓許可を得た古賀辰四郎氏は、尖閣諸島の開拓に着手し、アホウドリの羽毛採取をはじめとする事業を展開する。  和平日事務所  魚釣島に設けられた入り江
1902年(明治35年)	八重山郡大浜間切登野城村に編入され地番が確定する。  魚釣島の古賀村  石垣市宇登野城の地番を示す標杭
1909年(明治42年)	魚釣島、久場島及び南小島の集落は開拓者の古賀辰四郎氏にちなんで通称「古賀村」と呼ばれ栄え、事業最盛期には、99戸、248人が生活し、漁業や鰹節製造、海鳥の剥製加工などが行われていたと記録されている。  魚釣島事業所建物配置図(明治40年代) (資料:「季刊沖縄」第63号)  黄尾島之圖(宮嶋幹之助作成・明治33年) (資料:「地学雑誌」第12集)
1920年(大正9年)	当時の中国、中華民国駐長崎領事から尖閣付近で中国人遭難者を救助したとして、石垣村長をはじめ関係者に感謝状が贈られる。その中に「日本帝国沖縄県八重山郡尖閣列島」と明記されている。  中華民国から当時の石垣村長豊川善佐氏に贈られた感謝状

1940年(昭和15年)	古賀辰四郎氏の後、古賀善次氏が事業を受け継いだ。しかし、アホウドリの羽毛採取事業はすでに成立しなくなっており、また鰹節製造業も燃料が配給制となったため確保が困難となり工場を閉鎖した。そのため居住していた人も退去し、再び無人島になった。  昭和15年頃の魚釣島
1945年(昭和20年)	太平洋戦争末期、石垣町民を乗せ台湾に向かっていた疎開船が米軍の攻撃を受け魚釣島に漂着する「尖閣列島戦時遭難事件」が発生。魚釣島でも多くの人が亡くなった。  石垣市新川に建立された「尖閣列島戦時遭難者死没者慰霊之碑」
1952年(昭和27年)	第二次世界大戦後 サンフランシスコ平和条約により、尖閣諸島は沖縄県の一部としてアメリカ軍の施政権下におかれることとなる。  サンフランシスコ平和条約発効  米軍施政権範囲図 (資料:米国民政府資料)
1969年(昭和44年)	ECAFE(国連アジア極東経済委員会)が東シナ海に石油埋蔵の可能性を報告。これを機に中国及び台湾が突如として領有権を主張し始めた。 石垣市が「台湾疎開石垣町民遭難者慰霊碑」を魚釣島に建立。  魚釣島に建立された「台湾疎開石垣町民遭難者慰霊碑」
1971年(昭和46年)	沖縄返還協定が結ばれ、翌年には尖閣諸島も日本に返還される。その後も日本政府は、尖閣諸島周辺海域の警備取締りを継続している。  魚釣島に設置された灯台 (写真提供:山田吉彦)
1978年(昭和53年)	民間の政治団体が魚釣島に航路標識、灯台を設置。また、食料として一対のヤギが持ち込まれた。 
2010年(平成22年)	9月7日 尖閣諸島付近で違法操業中の中国漁船が、取締りを実施した海上保安庁の巡視船2隻に体当たりしてきた事件が発生。
2012年(平成24年)	魚釣島、北小島、南小島の3島は個人有地であったことから、東京都が購入を表明。9月2日に現地調査を実施した。  魚釣島で確認された湧水 (写真提供:小城春雄)  東京都による調査状況 (写真提供:東京都) 9月11日 日本政府が所有者から3島を購入し日本国への所有権移転登記を完了した。

6 尖閣諸島における学術調査

絶海の孤島・尖閣諸島は古賀氏による事業撤退以降、その遠隔性や荒い波に拒まれ、上陸調査は困難を極めました。琉球大学をはじめとする調査団により、精力的な調査・研究が実施され、その自然や環境の一端が明らかにされてきました。ここではこれまでに実施された学術調査と、その中で確認された非常に珍しい植物、動物の一部を紹介します。

調査時期	概要	主な成果
1885年	沖縄県三里間切の大城永保氏が魚釣島観察報告書を沖縄県に提出 植生や鳥類について報告	
1900年	古賀辰四郎氏の調査団による尖閣諸島調査	「沖縄県下無人島探検談」 「尖閣列島探検記事」
1910年	つねとうのりたか 恒藤規隆氏による久場島、魚釣島、北小島、南小島の視察調査	「南日本の富源」 「予と燐鉱の探検」
1939年	農林省南西諸島鉱物資源調査団による尖閣5島の調査	「尖閣列島を探る」
1948～50年	鹿児島大学実習船新潮丸による海区漁業調査	「魚釣島近海に於けるカジキ漁況と水温の関係について」 「魚釣島近海の底延縄漁業について」
1950年	元琉球大学学長の高良鉄夫氏らによる魚釣島の生物調査	「尖閣列島の植物相について」
1952年	琉球大学、琉球農林省資源局の合同調査	「尖閣列島の動物相について」
1953年	琉球大学生物調査・野外実習	「魚が鳥を食った話-尖閣列島・南小島の動物たち」
1963年	琉球政府文化財保護委員会によるアホウドリ調査	「尖閣列島海洋調査報告」 「尖閣列島のアホウドリを探る」 「尖閣列島の植生」
1968年	総理府による尖閣諸島鉱物資源予備調査	「海洋学的に見た尖閣列島」 「尖閣列島の水質」 「尖閣列島の海鳥について」 「尖閣列島一帯の学術調査について」
1970年	九州大学・長崎大学合同尖閣諸島学術調査	「東支那海の谷間:尖閣列島」 「尖閣列島魚釣島・北小島・南小島の地質」
1970～71年	東海大学による尖閣列島周辺海底地質調査	「尖閣列島周辺海底地質調査報告書」
1971年	琉球大学尖閣諸島総合学術調査	「尖閣列島学術調査報告」
1974年	琉球大学による南小島の動物相調査	「尖閣列島・南小島を訪ねて」
1975年	琉球大学による魚釣島の植物及び有用植物調査	「魚釣島の植物地理」
1979年	沖縄開発庁による尖閣諸島総合調査(学術調査、利用開発可能性調査)	「尖閣諸島調査報告書(学術調査編)」 「尖閣諸島調査報告書(利用開発可能性調査編)」
1979年	琉球大学による魚釣島生物調査(NHK取材班に同行調査)	NHK「科学ドキュメント」
1980年	琉球大学による黄尾嶼の生物調査(NHK取材班に同行調査)	
1981年	沖縄県農林水産部による尖閣諸島漁場調査	「尖閣諸島周辺漁場調査報告書」
1988年	東邦大学長谷川博氏による南小島のアホウドリ確認(朝日新聞社機にて)	
1991年	琉球大学による魚釣島の植物調査(NHK取材班に同行調査)	
1991年	東邦大学長谷川博氏による南小島上陸調査(フジテレビ取材班に同行)	
1992年	東邦大学長谷川博氏による南小島上陸調査(朝日新聞取材班に同行)	
1995年	北小島の海鳥観察と沖縄写真連盟の撮影会	「アホウドリ復活の軌跡」
2001年	沖縄テレビによる取材調査	
2002年	長谷川博氏による南小島、北小島調査(沖縄テレビ取材班に同行)	
2012年	東京都による尖閣諸島現地調査	「東京都尖閣諸島現地調査報告書」



尖閣諸島学術調査で確認された動植物

<p>センカクオトギリ (オトギリソウ科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>絶滅危惧IA類(CR)-環境省レッドリスト 絶滅危惧IA類(CR)-レッドデータおきなわ</p>	<p>センカクツツジ (ツツジ科)</p> <p>写真提供:新城和治</p> <p>絶滅危惧IA類(CR)-環境省レッドリスト 絶滅危惧IA類(CR)-レッドデータおきなわ</p>	<p>センカクハマサジ (イソマツ科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>絶滅危惧IA類(CR)-環境省レッドリスト 絶滅危惧IA類(CR)-レッドデータおきなわ</p>								
<p>マメヅタカズラ (ガガイモ科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>絶滅危惧IA類(CR)-環境省レッドリスト 絶滅危惧IA類(CR)-レッドデータおきなわ</p>	<p>センカクトロロアオイ (アオイ科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>絶滅危惧IA類(CR)-環境省レッドリスト 絶滅危惧IA類(CR)-レッドデータおきなわ</p>	<p>タカサゴアザミ (キク科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>絶滅危惧IA類(CR)-環境省レッドリスト 絶滅危惧IA類(CR)-レッドデータおきなわ</p>								
<p>イリオモテラン (ニューメンラン) (ラン科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>絶滅危惧IB類(EN)-環境省レッドリスト 絶滅危惧IA類(CR)-レッドデータおきなわ</p>	<p>リュウキュウセッコク (ラン科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>絶滅危惧IB類(EN)-環境省レッドリスト 絶滅危惧II類(VU)-レッドデータおきなわ</p>	<p>アホウドリ (アホウドリ科)</p> <p>写真提供:水島邦夫</p> <p>絶滅危惧II類(VU)-環境省レッドリスト 絶滅危惧II類(VU)-レッドデータおきなわ</p>								
<p>カツオドリ (カツオドリ科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>(成鳥) (幼鳥) 準絶滅危惧(NT)-レッドデータおきなわ</p>	<p>セグロアジサシ (カモメ科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>準絶滅危惧(NT)-レッドデータおきなわ</p>	<p>オオアジサシ (カモメ科)</p> <p>写真提供:新納義馬</p> <p>絶滅危惧II類(VU)-環境省レッドリスト 絶滅危惧II類(VU)-レッドデータおきなわ</p>								
<p>センカクモグラ (モグラ科)</p> <p>写真提供:横畑泰志</p> <p>絶滅危惧IA類(CR)-環境省レッドリスト 絶滅危惧IA類(CR)-レッドデータおきなわ</p>	<p>絶滅危惧のカテゴリー</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>絶滅危惧IA類(CR)</td> <td>絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの</td> </tr> <tr> <td>絶滅危惧IB類(EN)</td> <td>絶滅の危機に瀕している種のうち、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</td> </tr> <tr> <td>絶滅危惧II類(VU)</td> <td>絶滅の危険が増大している種</td> </tr> <tr> <td>準絶滅危惧(NT)</td> <td>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種</td> </tr> </tbody> </table> <p>環境省レッドリスト:第4次レッドリスト H24.8公表 レッドデータおきなわ: 改訂:沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 菌類編・植物編 レッドデータおきなわ H18.3公表 動物編 H17.9公表 ※種名、科名は「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物」に準拠した</p>		絶滅危惧IA類(CR)	絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	絶滅危惧IB類(EN)	絶滅の危機に瀕している種のうち、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	絶滅危惧II類(VU)	絶滅の危険が増大している種	準絶滅危惧(NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
絶滅危惧IA類(CR)	絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの									
絶滅危惧IB類(EN)	絶滅の危機に瀕している種のうち、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの									
絶滅危惧II類(VU)	絶滅の危険が増大している種									
準絶滅危惧(NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種									

7 尖閣諸島の環境問題

魚釣島の変遷

魚釣島では現在ヤギの増加による植生破壊問題が進んでいます。このヤギは日本の民間政治団体により1978年に雌雄各1頭が与那国島から持ち込まれたものが増加したもので、現在その数は300頭とも500頭とも言われており、特に海岸や南斜面で「食害」が進行しています。その影響は貴重な動植物の衰退や生態系の変化をもたらすだけでなく、土砂の崩落や浸食により島そのものの崩壊につながる危機的な問題です。



1979



1978



2012



2003



漂流・漂着ごみ

2012年に行われた東京都の調査では、魚釣島、北小島、南小島の海岸に多数の漂着ごみが流れついて散乱している様子が確認されました。漂着ごみは海鳥やウミガメが餌と間違えて食べてしまうことも多く、自然環境保全の観点からも深刻な問題とされています。

八重山諸島と同じく黒潮の流れの中にある尖閣諸島は、近隣諸国から発生した漂着ごみの通過点となっています。漂着ごみは処理が困難であるばかりでなく際限がなく辿りつくため、全国の離島でも同様の問題に悩まされており、課題解決に向け、国際的な取り組みが望まれています。



絶滅危惧種の保全

尖閣諸島のアホウドリは1845年、英国の探検測量船サマラン号の東洋探検隊により初めて記録されました。その後、羽毛採取事業の展開により激減し、尖閣諸島では姿をみることができませんでしたが、1971年琉球大学の調査により南小島で70年ぶりに成鳥が発見され、1988年には繁殖も確認されました。

アホウドリは北太平洋に分布する渡り鳥で、夏季はベーリング海やアラスカ湾で過ごしますが、冬季は繁殖のため日本近海に南下します。現在繁殖地として確認されているのは尖閣諸島の他、伊豆諸島の鳥島、ハワイ沖のミッドウェー環礁のみであり、国際的にも絶滅が危惧される状況となっています。このように、尖閣諸島における繁殖環境の保全がアホウドリを絶滅から守るために非常に重要と考えられています。(2006年からは鳥島で火山活動が活発化する兆しがあるため、小笠原諸島の^{もくじま}鴎島に繁殖地を移す計画が進められています)



8 石垣市の取り組み

海洋基本計画の紹介



海とともに生きてきた石垣市が、長期的な視点にたつて積極的に海を守り活用していく活動計画として「石垣市海洋基本計画」を平成25年3月に策定しました。この計画は各種施策の実行を通して、我が国のみならずアジアを代表する「海洋都市いしがき」としての発展を目指すことを目的としています。

本計画では沿岸域の総合管理のあり方や海洋再生エネルギー等について検討するとともに、尖閣諸島についてもその維持管理や保全について提案しています。

石垣市としての尖閣諸島における取り組み

石垣市では「石垣市海洋基本計画」の中で以下のような内容を、尖閣諸島における施策としています。

① 島々の自然環境保全

島々及び周辺海域の自然環境の実態把握、希少野生生物の保護、航行目標保安林の指定、自然環境保全に向けた法的枠組みの設定のための調査研究の推進、自然環境保全拠点施設の可能性検討

② 漁業資源管理等

周辺海域での安全・安心な漁場活動の推進を目的とした環境・インフラ整備、漁業資源に関する調査、漁業権設定および漁業権管理主体となる八重山漁業協同組合を通じた適正かつ合理的な漁場計画策定のための提案および漁業資源管理、海洋資源および海洋再生エネルギーの研究・開発

③ 海洋保護区の設定

世界自然遺産への指定を視野に入れた調査研究の実施および海洋保護区の設定の推進

これらのことを受けて、石垣市では以下のものが必要だと考えています。

気象・海象観測施設

灯台

無線施設

漁港

尖閣資料館

尖閣諸島3D模型



石垣市では市民の皆様により尖閣諸島に親しんでいただくために、プロジェクターで様々な情報を投影できるジオラマ「尖閣諸島3D模型」を製作しました。

石垣市立図書館

〒907-0013 沖縄県石垣市浜崎町1丁目1番地

電話0980-83-3862

このパンフレットに関するお問い合わせ先

石垣市企画政策課

〒907-8501 沖縄県石垣市美崎町14番地

電話0980-82-1350 FAX 0980-83-1427